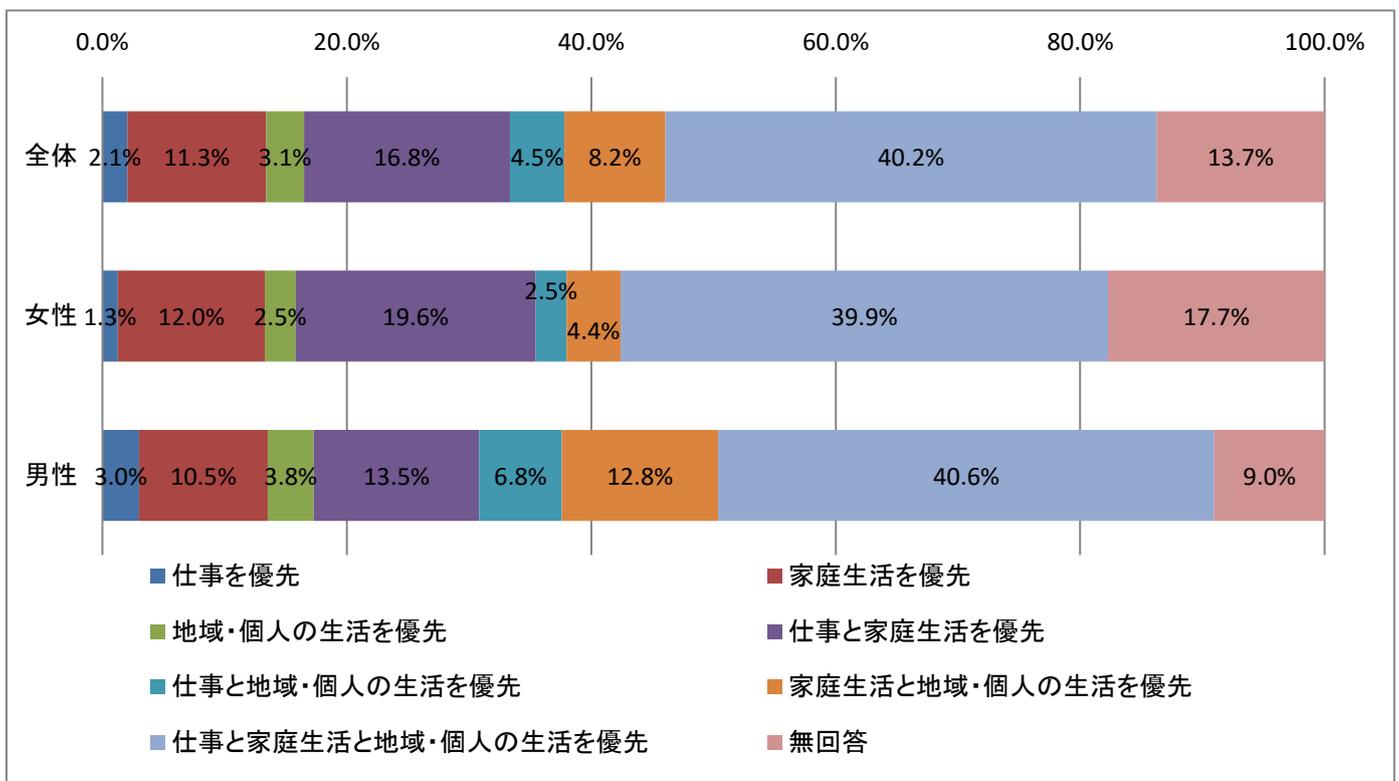


仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

問20. 仕事と生活の調和について（理想）

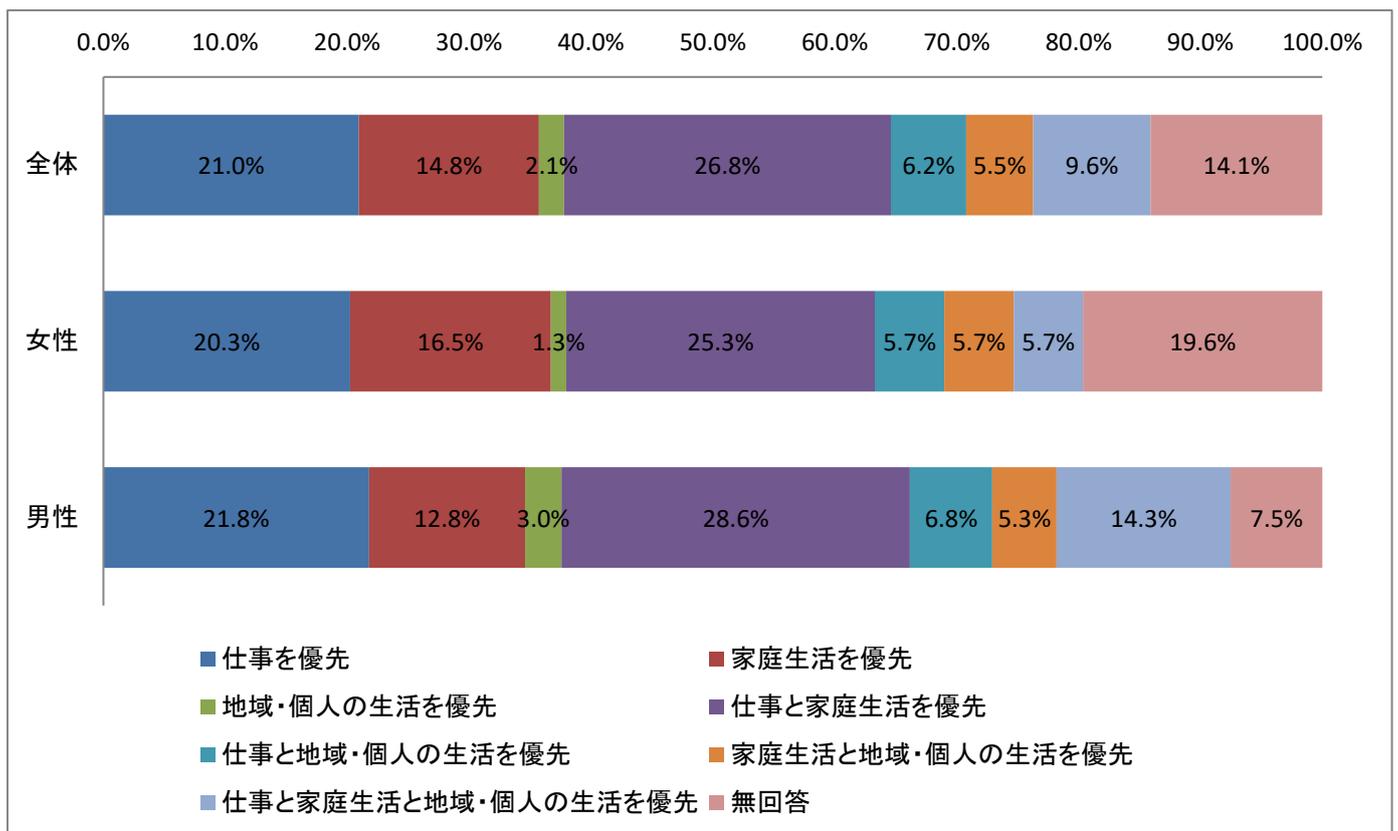
理想	全体		女性		男性	
	人数 (人)	構成比 (%)	人数 (人)	構成比 (%)	人数 (人)	構成比 (%)
仕事を優先	6	2.1	2	1.3	4	3.0
家庭生活を優先	33	11.3	19	12.0	14	10.5
地域・個人の生活を優先	9	3.1	4	2.5	5	3.8
仕事と家庭生活を優先	49	16.8	31	19.6	18	13.5
仕事と地域・個人の生活を優先	13	4.5	4	2.5	9	6.8
家庭生活と地域・個人の生活を優先	24	8.2	7	4.4	17	12.8
仕事と家庭生活と地域・個人の生活を優先	117	40.2	63	39.9	54	40.6
無回答	40	13.7	28	17.7	12	9.0
回答者数	291	100.0	158	100.0	133	100.0



全体では「仕事と家庭生活と地域・個人の生活を優先」が40.2%と最も高く、性別で見ると男女ともに「仕事と家庭生活と地域・個人の生活を優先」（女性39.9%、男性40.6%）が最も高くなっています。

仕事と生活の調和について（現状）

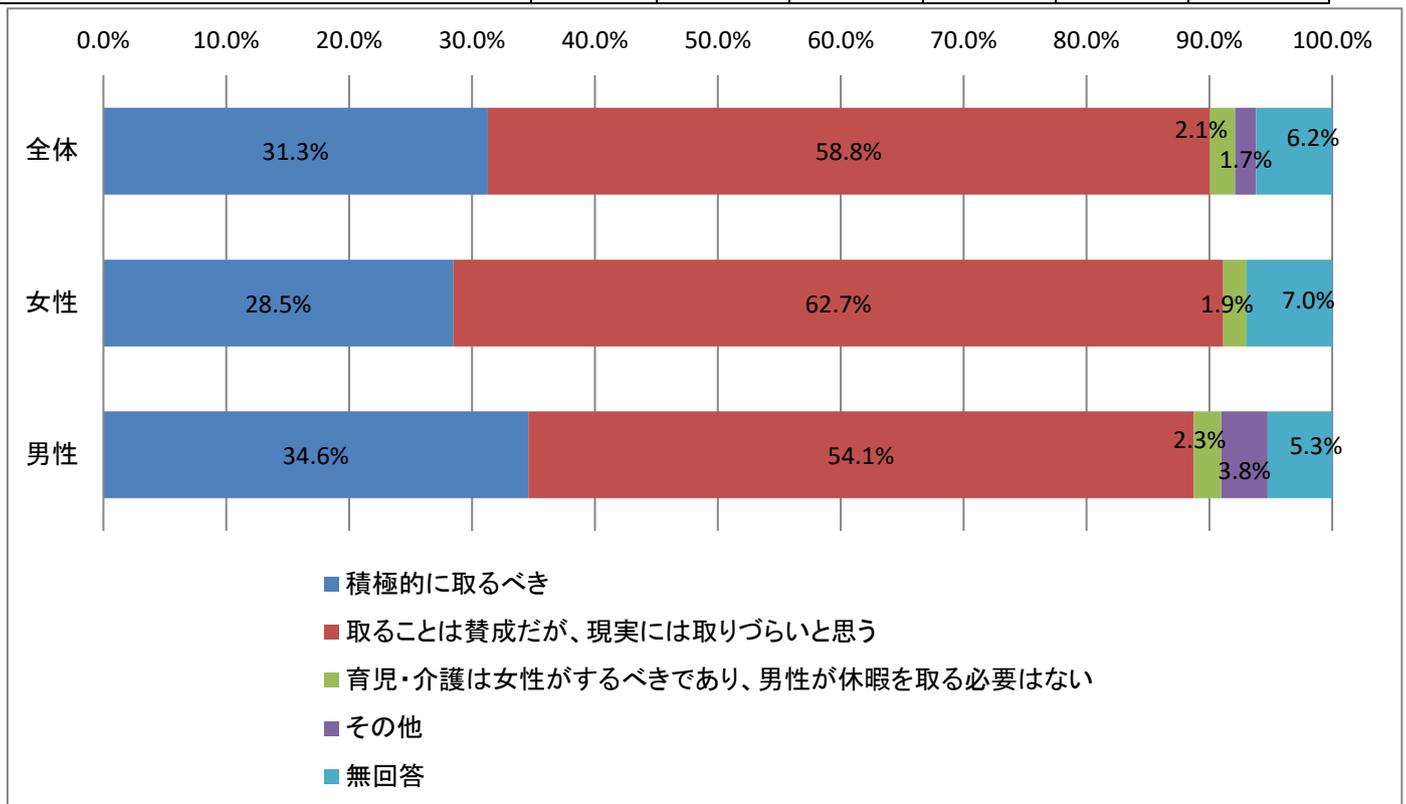
現状	全体		女性		男性	
	人数 (人)	構成比 (%)	人数 (人)	構成比 (%)	人数 (人)	構成比 (%)
仕事を優先	61	21.0	32	20.3	29	21.8
家庭生活を優先	43	14.8	26	16.5	17	12.8
地域・個人の生活を優先	6	2.1	2	1.3	4	3.0
仕事と家庭生活を優先	78	26.8	40	25.3	38	28.6
仕事と地域・個人の生活を優先	18	6.2	9	5.7	9	6.8
家庭生活と地域・個人の生活を優先	16	5.5	9	5.7	7	5.3
仕事と家庭生活と地域・個人の生活を優先	28	9.6	9	5.7	19	14.3
無回答	41	14.1	31	19.6	10	7.5
回答者数	291	100.0	158	100.0	133	100.0



全体では、「仕事と家庭生活を優先」が26.8%と最も高くなっています。性別でみると男女ともに「仕事と家庭生活を優先」（女性25.3%、男性28.6%）が最も高くなっています。理想では「仕事と家庭生活と地域・個人の生活を優先」が最も高かったが、女性5.7%、男性14.3%となっています。

問 2 1. 男性の育児・介護休業について

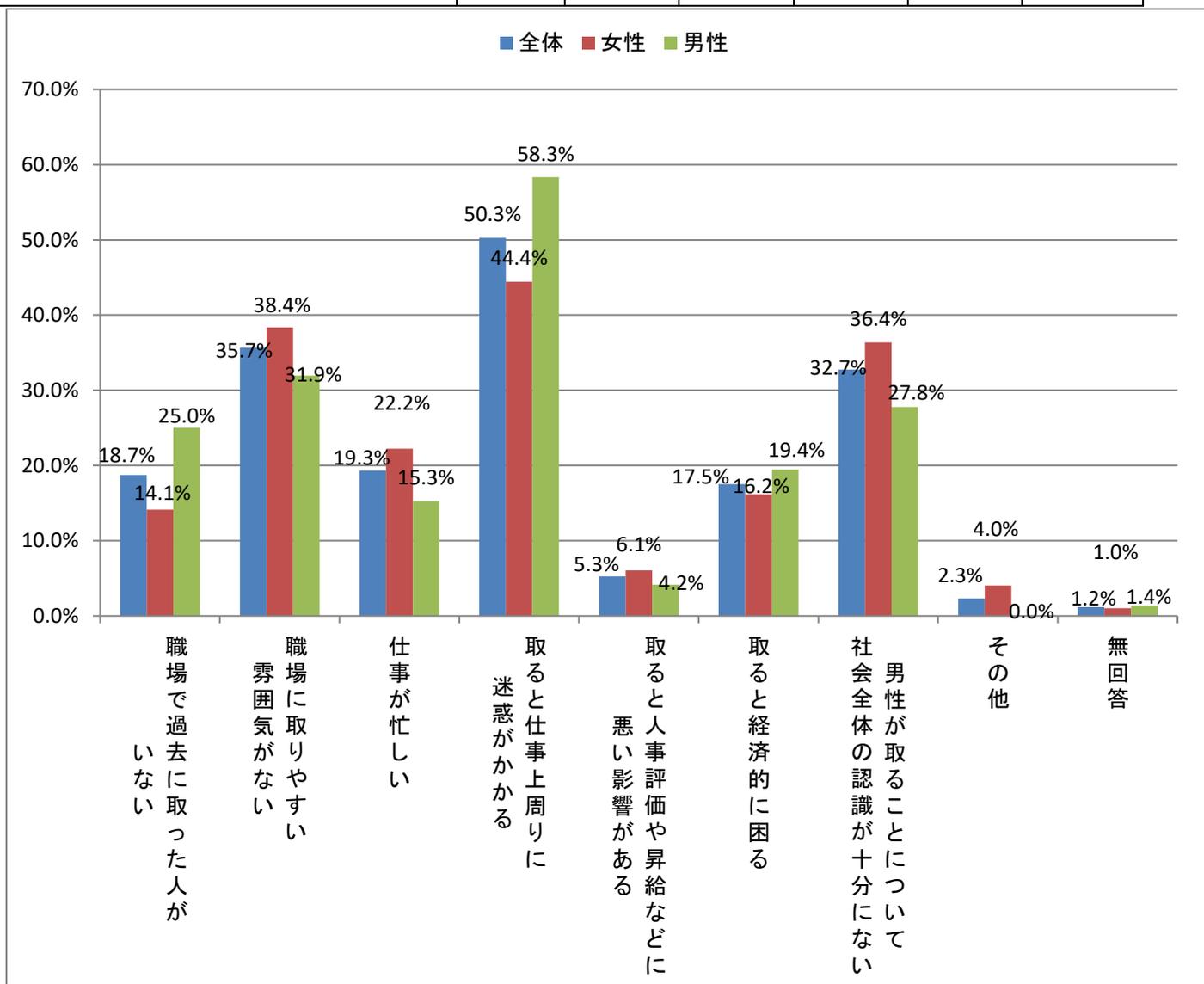
	全体		女性		男性	
	人数 (人)	構成比 (%)	人数 (人)	構成比 (%)	人数 (人)	構成比 (%)
積極的に取るべき	91	31.3	45	28.5	46	34.6
取ることは賛成だが、現実には取りづらいと思う	171	58.8	99	62.7	72	54.1
育児・介護は女性がするべきであり、男性が休暇を取る必要はない	6	2.1	3	1.9	3	2.3
その他	5	1.7	0	0.0	5	3.8
無回答	18	6.2	11	7.0	7	5.3
回答者数	291	100.0	158	100.0	133	100.0



全体では、「取ることは賛成だが、現実には取りづらいと思う」が 58.8%と最も高く、性別でも男女ともに「取ることは賛成だが、現実には取りづらいと思う」が最も高くなっています（女性 62.7%、男性 54.1%）。

問 2 1 - 1. 現実には取りづらいと思う理由。

	全体		女性		男性	
	人数 (人)	構成比 (%)	人数 (人)	構成比 (%)	人数 (人)	構成比 (%)
職場で過去に取った人がいない	32	18.7	14	14.1	13	25.0
職場に取りやすい雰囲気がない	61	35.7	38	38.4	31	31.9
仕事が忙しい	33	19.3	22	22.2	25	15.3
取ると仕事上周りに迷惑がかかる	86	50.3	44	44.4	58	58.3
取ると人事評価や昇給などに悪い影響がある	9	5.3	6	6.1	9	4.2
取ると経済的に困る	30	17.5	16	16.2	16	19.4
男性が取ることに社会全体の認識が十分でない	56	32.7	36	36.4	24	27.8
その他	4	2.3	4	4.0	1	0.0
無回答	2	1.2	1	1.0	0	1.4
回答者数	171		99		72	



全体では「取ると仕事上周りに迷惑がかかる」が 50.3%と最も高く、性別で見ると男女ともに「取ると仕事上周りに迷惑がかかる」（女性 44.4%、男性 58.3%）が最も高くなっています。